

第 4 回政策対話における討議用資料

リスク評価の新たな展開とそれを取り巻く課題（共通理解に向けた討議用メモ）

前回政策対話では、「リスク評価の新たな展開とそれを取り巻く課題」について検討するにあたり、以下の資料をご提示し、ご議論頂いた。

1. 趣旨

化学物質等のリスク評価としてさまざまな手法や技術がこれまでに確立されてきた。しかし、化学物質等の持つ有害性、暴露特性、またリスクへの社会的受容性などリスク評価に係るいずれの側面にも依然として大きな不確実性あるいは不明性が存在している。

そこで、第 4 回政策対話では、リスク評価の高度化を含めた新たな展開の中、それを取り巻く様々な課題について各ステークホルダーが意見交換を行い、化学物質に関する国民の安全・安心の確保に向けた政策提言を目指すこととする。

2. SAICM 国内実施計画及び第四次環境基本計画に記載されているリスク評価の新たな手法

【 科学的なリスク評価の推進 】

QSAR やカテゴリーアプローチ（ハザード評価）

化学物質の製造から使用・廃棄・処理までのライフサイクルの全段階でのスクリーニング・リスク評価手法

海域におけるリスク評価手法

トキシコゲノミクス¹（ハザード評価）

個体群、生態系全体を対象とした定量的なリスク評価手法

【 未解明の問題への対応 】

内分泌かく乱作用に関する評価手法

複数の化学物質が同時に人や環境に作用する場合の複合影響や、化学物質が個体群、生態系又は生物多様性に与える影響に関する評価方法

ナノ材料に関するリスク評価手法

¹ トキシコゲノミクス：物質の毒性を、遺伝子レベル（ゲノミクス）蛋白レベル（プロテオミクス）での発現変化により解析する方法。トキシコゲノミクスは、化学物質の生体影響評価手法の一つであり、ヒト影響評価へと応用されるとともに、生態影響評価においても有効な手段であると考えられている。

3. リスク評価の新たな展開の側面

(1) 評価の技術的高度化

例：上記の新たなリスク評価手法の開発、代替法の開発、評価の定量的信頼度や比較可能性の向上、実施の効率化など

(2) 科学的知見に基づく評価の枠組みの多様化

例：有害性の理解の多様化、脆弱あるいは高暴露集団などへの対処、対象生物や生態系の取り扱いの多様化など

(3) 評価の社会的受容性への対応の深化

例：リスク判定の総合的手法、評価結果の不確実性および不明性に対処する管理のあり方、リスク便益分析手法など

4. リスク評価の新たな展開を取り巻く課題について

(1) 評価の技術的高度化

【有害性情報・ばく露情報の一層の収集・活用】

- ・ SAICM 国内実施計画では、WSSD2020年目標の達成に向けてリスク評価をより一層加速化するために必要な取組みとして、「有害性情報・ばく露情報の一層の収集・活用、各種のモデル・手法の高度化」が、また、化学物質を使用した製品のライフサイクルに渡るリスクの最小化のために必要な取組みとして、「評価手法の高度化」が示されている。

論点 1 - 1： 新たなリスク評価手法を通じて、どのような有害性情報・暴露情報の充実に努めるべきか？その際、評価の基礎となる情報の収集・活用についても併せて留意する必要がある。

論点 1 - 2： 新たなリスク評価の実用化に向けては、どのようなツール（モデルや手法等）の確立や精度改善が必要となるか？

(2) 科学的知見に基づく評価の枠組みの多様化

【新たなリスク評価手法の位置づけ】

- ・ SAICM 国内実施計画では、科学的なリスク評価の推進に向けて、新たなリスク評価手法の「開発・実用化に努める」ことの必要性が示されている。化学物質管理の様々な取組みや枠組みが果たすべき役割に応じて、新たなリスク評価を位置づけ、活用を促進する必要がある。

論点 2 - 1： その際、様々なリスク評価の枠組みの中で、どのような暴露集団・生物・生態系等を設定するのが適切か？

論点 2 - 2： 化学物質のライフサイクルにおけるリスクに対して、どのようなリスク評価を実施すべきか？

(3) 評価の社会的受容性の深化

【社会へのわかりやすい情報の提供と正しい理解の促進】

- ・ SAICM 国内実施計画では、化学物質の安全性に対する国民の不安に対処するため、「化学物質のリスクに関する情報をわかりやすく提供しつつ、リスクコミュニケーションを一層推進し、国民の理解を高めていく必要がある」とされている。

論点3 - 1：多様化・高度化するリスク評価の技術や枠組みによって得られる様々なリスクに関する情報を、どのように社会に提供すべきか？

論点3 - 2：多様化するリスク評価の枠組みから得られるリスク評価の結果を、リスク管理の実施にどのように活用すべきか？

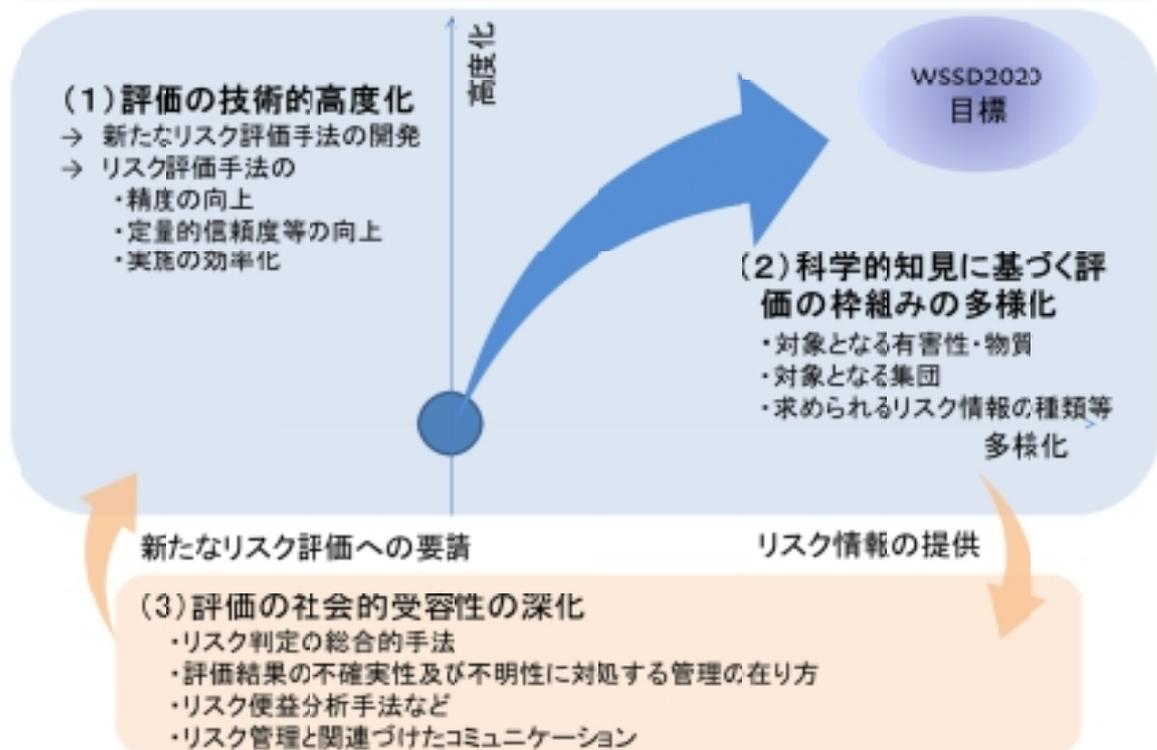
(4) 横断的分野

【人材育成】

- ・ SAICM 国内実施計画では、国はリスクコミュニケーションに係る場の提供、人材育成等の各種基盤整備を行ってきていることが記載されている。

論点4：リスク評価が新たな展開を見せる中、リスクに関する多様な情報を社会にわかりやすく伝えるための人材の育成をさらに促進するために、どのような対応が必要か？

リスク評価の新たな展開とそれを取り巻く課題



図表 1 リスク評価の新たな展開とそれを取り巻く課題に関する概念図